

ロボット教育を通して、製造業にも興味をもってもらいたい

～建設機械や減速機に使われる精密機械部品を加工～



株式会社 田口鉄工所

代表取締役

田口 薫 氏

- 住 所：大垣市中曽根町319-1
- T E L：0584-91-3226
- U R L：<https://taguchi-mw.com/>
- 事業内容：精密機械部品加工
(建設機械の足回り関連の部品、
ロボットの減速機に使われる部品など)
- 従業員数：45人

■ 産業用ロボットの関節を支える部品を製造

聞き手：まずは事業内容について、「精密機械部品加工」ということですが、ぜひ具体的に教えてください。

田口社長：NC旋盤やマシニングセンタと呼ばれる大きな機械を使って、鉄を加工するお仕事ですね。切るという行為はあまりないんですが、穴をあけたり削ったり。歯車の歯を切り出したりもします。でき上がる製品は、産業用ロボットの関節部分に組み込まれる減速機の部品や、建設機械の足回りの部品が多いですね。

主要なお取引先であるナブテスコ(株)のキャッチコピーが、「うごかす、とめる」というものなんです。つまり動きを制御する機構で、当社ではそれを支えている部品を作っています。他にも、電車の車軸の軸受けの部品も作っています。軸受けは、車輪が抜けないように止めている部分ですね。その関連で、珍しいところではスピードメーターの部品も作っています。

聞き手：トラックの速度も、タイヤの回転数で測るものなので、車軸にスピードメーターがついているのは納得ですね。ロボット関連の事業はいつ頃から手掛けていらっしゃるのでしょうか。

田口社長：30年程前からですね。ナブテスコ(株)、旧：帝人製機(株)が油圧機器(建機など)を作っていて、次の展開としてロボットの減速機を手掛けるように移り変わり、そこについて行った形です。

■ 零戦の職人だった祖父が創業

聞き手：では、歴史や事業の転換点についてもお聞かせください。

田口社長：この会社を始めたのは私の祖父です。東京は下町の人で、戦時中は零戦(零式艦上戦闘機)を作る職人でした。職人としては腕が良かったものの、東京大空襲の頃に焼け出されたようで、ちょうど大垣から働きに出ていた祖母と結婚した頃で、大垣に移り住むことになったと聞いています。

創業は1951年(昭和26年)ですね。モノづくりが好きだから会社を始めたという感じだと思います。ポンプ部品加工が主な仕事でしたが、戦後だから作るものはいっぱいあったんだろうと思います。

聞き手：きっと何を作るにも役立ったでしょうね。

田口社長：父は大阪で設計の仕事に就いていたらしいのですが、親が決めた結婚で婿に入りました。その後織機関連の仕事を請け負っていた時期もありますが、ある時「他の会社の仕事をやめて、うちの仕事だけを受けてくれないか」という誘いがあり、請負先を減らしました。結果的に、それが今のロボット事業にもつながっていますね。

私はというと、大学から東京に出て、しばらく働いて2009年に大垣に帰ってきたのですが、その頃はまだ自社内でもロボットをあまり活用できていなかったんです。それを見て「ああ、中小企業ってあまり使いこなせていないのかな」と感じて。そこで2019年にRTC東海(ロボットテクニカルセン



【写真左】

複雑な形状の加工に挑戦する社員。手に持っているサンプルの表面部はR3300の曲面です。

【写真右】

「産業用ロボットについて」出張講習の様子。「ロボットアイデア甲子園」の一環として、当社が実施した高校生向けの出張講習の様子。工業高校の生徒たちに産業用ロボットの仕組みや活用方法を知ってもらうことを目的として実施しました。専門家による説明を通じて、生徒たちは最先端技術について理解を深め、将来のものづくりに対する関心を高める貴重な機会となりました。

ター東海)を立ち上げました。今やロボットは、溶接やクレーンなどと同様に、安全特別教育が必要な職種となっています。センターではその講習を行っています。

聞き手: これまで製造業一筋だったのが、ロボットを使う人の教育も手掛けるようになるというのは、大きな転機ですね。

田口社長: 製造業って、立ち上げには先行投資がかなりかかります。それに比べたら場所も空いているし、初期投資も少ないしということで、事業区の一つとして始めやすかったこともあります。

もちろん、今後のためにも「ロボットを使いこなせる人を増やす必要がある」ということが大きな理由です。この事業をきっかけにして、高校へ出張授業にも力を入れています。また、若いうちから製造業界に興味を持ってくれれば良いなという思いがあり、「ロボットアイデア甲子園!」の「岐阜県大会inおおがき」の運営も行っています。

■ ロボットのアイデアコンテストを通じて、製造業にも興味を持ててもらえたら

聞き手: 甲子園というからには高校生が競い合うのだと思いますが、どのような催しなのでしょう。

田口社長: 「(高校生の)君ならこのロボット、どうやって使う?」という問いに対し、アイデアとビジネスモデルを考えて、プレゼンをするというコンテストです。最初に当社の見学や、実際に使われている現場について紹介して、そこからアイデアシートを記入します。「例えばテーマパークのこんな部分に使われているんだよ」という話をするとう興味を持つ生徒さんも多いですね。皆が書いてくれたシートを採点し、上位の生徒にはパワーポイントを使って発表してもらいます。最優秀の一人は全国大会へ進むことができます。今はこの催しを若手社員に仕切ってもらっているんです。

聞き手: それは良いですね。今の若い社員には、成功体験が少ないんじゃないかと思っているんです。

田口社長: 確かに、失敗体験も少なければ、成功体験も

少ないのかもしれませんが。このコンテストについて言えば、生徒にとっては成功も失敗も体験できます。社員にとっても同じで、これが仕事を続ける理由にもなってくれば良いなと思っています。

今の製造業は、製品を1万個作った中で不良品は1個だけ、というくらいに厳しい基準になっていて、しかも達成できても褒められるのではなく「当たり前」と言われてしまうような時代です。失敗する場も与えてもらえない。新卒にしろ中途にしろ、入社したばかりの社員には大きなプレッシャーだと思います。そのためBCPの活動や展示会、この甲子園もそれぞれをプロジェクトとして、若手を中心に経験してもらっています。

聞き手: そこで失敗も成功も体験してもらおうわけですね。

田口社長: 人を育てるのは難しいなと常々実感していますが、実は私もこの会社が10社目なんです。だから人のことは言えません。いろいろな仕事をして失敗もして、その中で経理や企画の力を鍛えてもらったのですが、その経験から、自分は働くことが好きだし、どこに行っても自分がやりたいと思ったことをやるんだなということも分かりました。若い社員には、いろいろな経験をして、働く中で自分なりの楽しみを見つけてほしいですね。

聞き手: では最後に、趣味や休日の過ごし方についても教えてください。

田口社長: 「趣味:仕事」みたいなところがありますが、職場には紅茶をたくさん置いています。コーヒーが飲めないこともあって、東京で買ったり、視察旅行で赴いた上海で買ったり。また、学生の時から旅行も好きですね。

聞き手: 忙しい中でも美味しい紅茶がいただけるのはとても素敵ですね。本日は貴重なお話をありがとうございました。

聞き手 (一社)岐阜県経営者協会 広報部会委員

岐阜梱包(株)

代表取締役 **堀部 友里**

経協ニュース

2025年新入社員研修を開催

3月26日(水)～28日(金)、4月2日(水)～4日(金)の計6日間にわたり会員企業の新入社員の皆様を対象とした研修を集合型にて開催いたしました。4月コースでは配属予定の職種に合わせじっくり学んでいただけるよう「事務系」、「技能系」、「大卒特別」の3クラスを設定しました。県内企業45社よりのべ450の方にご参加いただきました。

※以下にて研修の一部をご紹介します。

【仕事の筋トレ(勤トレ)研修】

良い姿勢、挨拶、凡事徹底など、新社会人としての基本行動と意識すべきことについて、講師の実体験や事例を基に実践を交え解説しました。研修の終わりには各々で今後の決意表明をしていただきました。

【プロの企業人になるために】

社会人として身に着けてほしい「コンプライアンス」意識や経済動向などの一般常識のほか、10年後も活き活きと働くためのライフプランや自身の心と体の健康管理の重要性についても考えていただきました。

【ビジネスマナー】

接遇、訪問のマナーや電話対応のほか、Eメールやビジネス文書のルールや書き方、SNS利用における注意事項など、基本的なビジネスマナーについて、ケーススタディやロールプレイングを通して学んでいただきました。

【職場における報連相】

コミュニケーションの基本と職場での報連相の重要性を理解していただくため、実践的なグループワークを行い、相互理解のコツを学んでいただきました。

【Z世代の社会人セットアップ】

「社会を生き抜くための基本知識と心構えの習得」をテーマに、「生成AI」や「カーボンニュートラル」など社会変化を的確にとらえて仕事を進めることの重要性や、新社会人として積極的に一歩踏み出す姿勢と価値観について考えていただきました。

【職場のコミュニケーション】

「チームの一員」としてのコミュニケーション、「仕事を円滑に進めるため」のコミュニケーションなど、「チームづくり」をゲーム形式のワークで実践しながら体感的に学んでいただきました。



仕事の筋トレ(勤トレ)研修



プロの企業人になるために



ビジネスマナー



Z世代の社会人セットアップ



職場のコミュニケーション

教育部会を開催

3月21日(金)グランヴェール岐山にて開催し、水谷 泰三 教育部会長(株)文溪堂 代表取締役社長)ほか10名の委員にご参加いただきました。

事務局より2024年度の事業実績を報告した後、2025年度の事業計画(案)について説明を行いました。

その後、今後の教育活動の参考とするため、現在行っているさまざまな講座や出張講座などについて委員の皆様よりご意見をいただきました。

総務部会を開催

3月27日(木)岐阜グランドホテルにて開催し、林 敬治 総務部会長(株)大垣共立銀行 取締役頭取)ほか11人の委員にご参加いただきました。

事務局より2024年度事業・収支決算報告、および2025年度事業計画(案)・収支予算(案)について説明を行い、了承いただきました。

委員の皆様からは、人事労務における課題や人材採用・育成等、今後の協会に求める活動について、ご意見をいただきました。

第26回幹事会・岐阜県下経済三団体懇談会(江崎 禎英 岐阜県知事講話)を開催

3月28日(金)岐阜グランドホテルにて、岐阜県経営者協会・岐阜県商工会議所連合会・岐阜県経済同友会の三団体合同にて開催しました。2月に就任した江崎 禎英 岐阜県知事を招いて、新知事が目指す方向性を確認する場を設けようと、県下経済三団体が連携して開催しました。

江崎知事は「今までの当たり前を見直す」とし、新年度に設置した未来創成局については、「国に対して制度的なモノ申すチームを作った。この国で必要な政策は岐阜県から発信する」と力を込められました。

懇談会に先立って、当協会は岐阜県経済同友会と合同で幹事会を開催し、令和7年度の事業計画について説明を行いました。



第2回支部役員会を開催 **各務原支部**

3月19日(水)岐阜カンツリー倶楽部 レストランにて開催し、12名の委員にご参加いただきました。

冒頭では柳原幸一 支部長(株)鶴飼 代表取締役会長)よりご挨拶をいただいた後、事務局より2024年度事業報告及び収支報告、2025年度事業計画(案)について説明を行いました。

また同日に希望者を募っての親睦ゴルフ会を開催し、さらなる交流と絆を深める機会といたしました。今後もこのような機会を通じて事務局内の連携を強化し、支部活動の一層の推進を図ってまいります。



中間報告会を開催 中津川支部

3月19日(水)中津川商工会議所にて開催しました。

当講座は今年2月6日に開催した井坂講師による講座を受講した9名にご参加いただき、受講後に各職場で1か月間行った職場改善の報告と受講者同士の情報共有を行う事で、更に改善を継続していただくことを目的に企画しました。

講座の冒頭、副支部長の林 彰氏(DAISEN(株) 代表取締役社長)より、ご挨拶をいただき、その後は受講者間での活発な情報交換を行いました。次回は2か月後の5月23日(金)に上司を交えての職場実践報告会を開催します。



第5回 岐阜支部推進会議を開催 岐阜支部

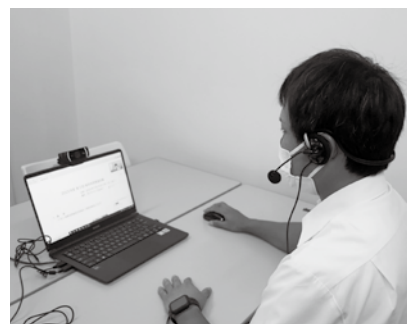
3月25日(火)オンライン(Zoom)にて開催し、4名の委員にご参加いただきました。

2024年度 支部活動の振り返り及び、2025年度岐阜支部総会の内容について議論を行いました。

委員の皆様からは、「会員企業の興味を引くようなテーマでセミナーを開催できた」、「ハイブリッド開催により多くの方にご参加いただけた」といったご意見を頂戴いたしました。

2025年度岐阜支部総会時に開催する記念講演会は他支部の皆様もご参加可能です。多数のご参加をお待ちしております。

※記念講演会の詳細は当協会ホームページ「現在募集中のセミナー」よりご確認ください。



新規会員 の ご紹介

各務原支部

■ 川重岐阜エンジニアリング株式会社

設 立 1981年7月1日

所 在 地 各務原市川崎町2番地

代 表 者 代表取締役社長

永森 久幸

事業内容 航空宇宙関連機器の研究開発・試験・生産技術・品質保証等の業務



各務原支部

■ 川重岐阜サービス株式会社

設 立 1972年6月1日

所 在 地 各務原市川崎町1番地

代 表 者 代表取締役社長

納土 英明

事業内容 川崎重工(株)航空宇宙システムカンパニーに対するサポート業務



各務原支部

■ 株式会社 ケージーエム

設 立 1986年4月1日

所 在 地 各務原市川崎町1番地

代 表 者 代表取締役社長

山岡 俊洋

事業内容 航空機用部品の加工及び組立、試験用装置・機材等の制作



人と経営 5月号

(第74巻5号通巻572号) (2025年5月1日発行)

■編集発行人

広報部会長 堀 部 友 里

■発行所

一般社団法人 岐阜県経営者協会

〒500-8833 岐阜市神田町2-2 TEL 058-266-1151 URL <https://gifukeikyo.org/>

■印刷・製本

株式会社印刷工房 〒501-0597 岐阜県揖斐郡大野町下磯750-1 TEL 0585-36-0201